

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成31年3月4日
主管学校名	宮城教育大学附属幼稚園
P T A会長名	佐々木 理恵子(幼稚園)

実施概要	主管校	宮城教育大学附属幼稚園
	交流校	宮城教育大学附属特別支援学校
	実施活動名	宮城教育大学附属特別支援学校生徒と園児の交流会
	実施日時	①平成30年12月5日(水), ②平成31年2月26日(火)
	実施場所	宮城教育大学附属特別支援学校, 宮城教育大学附属幼稚園
	実施目的	特別支援学校生徒と園児が交流することで, 互いの存在を理解する。
	実施内容	12月に特別支援学校生徒に卒園記念品製作を依頼し, 2月に完成した記念品の贈呈式と交流会を行う。
実施方法	①12月5日(水)「園児特別支援学校訪問・交流会」を実施した。幼稚園年長児がバスで特別支援学校を訪問し, 木工班・総合サービス班・陶芸班の見学と卒園記念品製作の依頼をした。 ②2月26日(火)「支援学校生徒と園児の交流会」を実施した。特別支援学校生徒がバスで来園し, 卒園記念品贈呈式, 及び交流会を実施した。	
参加人数	幼稚園年長児56名, 支援学校高等部生徒22名, 幼稚園保護者13名, 幼稚園・支援学校教諭13名	

報告事項	内容	①12月5日(水)に幼稚園年長児が特別支援学校を訪問して, 木工作业風景の見学と, 総合サービス班ではお客様の役になり高等部生徒から接客をしてもらい, 陶芸班では実際に粘土を使って普段の作業体験をしました。 また, 木工班では, 園児より高等部生徒へ卒園記念品(ペン立て付きフォトフレーム)製作を依頼して, 後日, フォトフレームに描いてもらうステンシル型の希望を6種類の中から1つ選んで, 園を通して生徒に伝えました。高等部生徒は, 約2ヶ月かけ卒園記念品を製作しました。 ②2月26日(火)に特別支援学校高等部生徒が幼稚園に来園しました。園児からの歌, ダンス, 音楽, コマ遊びの発表の後に, 高等部学生からは電子黒板を使用し, 卒園記念品の制作の説明がありました。その後, 8グループに分かれて卒園記念品贈呈式を実施し, お兄さん, お姉さんから直接記念品を受け取りました。最後は, 園児も生徒も発表した好きな遊びを一緒に楽しみました。
	結果	最初の交流会では, 初めての特別支援学校ということもあり緊張していた園児たちでしたが, 2回目の交流会では, 親しみをもって高等部生徒を迎えることができました。自分たちの卒園記念品を製作してくれた高等部生徒に対し, 終始, 感謝の心と, 大きいお兄さん・お姉さんへ対する尊敬の気持ちをもって接することができました。また, 高等部生徒も2回の交流を通して, 作品製作に対する責任感, 達成感, 自信をもつことができました。自由交流の際には, 園児が積極的に声をかけ, 高等部生徒と笑い合い, 遊ぶ姿を見ることができました。 交流会を2回もつことで, より自然にお互いを受け入れることができました。
	所感	大人は言葉だけで「インクルーシブ教育」や「インクルーシブ社会」を語りがちですが, このように小さいうちから経験として両者に隔たりがないという関係を体験していくことがとても重要だと考えます。 また, 附属校園であることのメリットは, お互いの学校を行き来できることにあると思います。継続的な交流を今後も続けていくべきだと考えます。

添付書類	活動記録写真1枚, 参加者感想(保護者)2枚, 参加者感想(生徒・園児)1枚, 収支決算書1枚, 領収書添付シート1枚
------	---



カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成31年3月4日
学校名	宮城教育大学附属幼稚園
学年	

【高等部生徒の感想】

- ・ やすりがけが大変だったけど、喜んでもらえてうれしいです。
- ・ ボンドを使って取れないように付けるのが大変だったけど、喜んでもらえてよかった。
- ・ 丁寧に作ることができて良かった。
- ・ 喜んでもらえて良かった。
- ・ 一緒に遊べて楽しかったです。

【園児の感想】

- ・ 卒園記念品がうれしかった。
- ・ いい匂いの素敵なペン立てを作ってくれてありがとうございます。
- ・ メッセージカードがうれしかった。
- ・ 木をさわるとつるつるして気持ちいい。こんなにつるつる作れるお兄さんお姉さんはすごいと思った。
- ・ 自分の勉強机に置いて大切に使いたい。
- ・ お兄さんお姉さんのお名前はわからないけれど、この卒園記念品を見たら、お兄さんお姉さんのお顔を思い出します。
- ・ 一緒に縄跳びができて楽しかった。

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日 平成31年3月4日

学校名 宮城教育大学附属幼稚園

・わずか1時間ほどでしたが、特別支援学校の生徒たちにとっても、幼稚園児たちにとっても、そして近くで見守っていた私たちにとっても、とても学びの多い、貴重な時間でした。

西遊戯室で高等部の生徒さんと園児たちが対面した時は、お互い緊張の面持ちでした。緊張しながらもしっかりと挨拶する園児に対し、真剣に耳を傾けてくれる生徒さん。お互いに本当に立派な姿でした。園児たちによる歓迎の歌では、生徒さんも拍子をとったり、笑顔になったり、少し場の空気が和らぎました。幼稚園紹介で、園児が言葉に詰まる場面がありましたが、高等部の生徒は次の言葉が出てくるまでしっかりと聞いてくれました。

そして場の雰囲気が一気に和んだのが園児たちからの踊りや縄跳び、ハンドベルやコマ回しの披露でした。特にUSAが流れ、園児が踊りだした時には生徒さんもノリノリで体を揺らし、満面の笑みで手拍子をしていました。生徒さん、園児たち、そしてその場にいた教職員の方々や私たちまでも一体感が感じられた時間でした。

卒業記念品の説明では、1つ1つ30分も磨きをかけてくれたこと、メッセージカードも3パターンも考えてくれたこと、きれいにラッピングしてくれたことなどお話してくれ、園児たちのために、1つ1つ大切に大切に作ってくれたことがわかりました。生徒さんは、その記念品を1人1人に両手で丁寧に渡してくれ、園児たちも名前が呼ばれると嬉しそうに「はい」と元気よく手を上げ、記念品を受け取っていました。記念品を開け、嬉しそうにヒノキの香りを楽しむ園児たちや自分たちの選んだマークを見せ合う園児たち。私が近づくと、「見て見て！ツリーのマークにしたの！」「甘い匂いがする！」と本当に嬉しそうに話してくれました。そんな中に、丁寧に写真たての説明をしてくれる生徒さん。目線を合わせ、「どうでしたか？」と優しく聞いてくれる生徒さん。「後で一緒に遊ぼう！」と無邪気に誘う園児。少しずつ関わりが生まれていました。

先生から遊びの時間に入ることを告げられると、園児たちから「いえーい！」という言葉も出てきて、生徒さんと一緒に遊ぶことを楽しみにしていた園児たちの気持ちが伝わりました。遊びの時間に入ると、今までの緊張がまるでなかったかのように一気に距離が縮まり、お互い本当に楽しそうに遊び始めました。さらに、コマ回しや縄跳びに誘う園児の姿から、心を通わせようとする様子が見られました。また、慣れない手つきでコマを持った生徒さんが園児に「こう持つ感じ？」などと尋ね、園児もやって見せて教え、それを何度も繰り返してコマが回せるようになりました。遊びの中から学び合いが生まれている様子が見られました。25分という決して長くはない時間でしたが、生徒さんにとっても園児たちにとっても、とても充実した時間だったと思います。

終わりの言葉では、まだ遊びたかった様子を見せながらも、生徒さん、園児たちから心からの笑顔が見られ、この時間が本当に楽しく、充実した時間だったのだと感じました。

会が始まったばかりの時は、多少戸惑いの表情を浮かべていた園児もいましたが、交流を通し、「違い」という垣根を越えて、同じ仲間、お友達として関わるようになったと感じました。また、お互いに得られるものも多く、交流の意義を強く感じました。このような機会が持てる附属校園に通わせていただいていることに感謝の意を持つとともに、この交流がいつまでも続き、そして広がっていくことを願います。

・吹く風に春のきざしが感じられるような晴天の下で、特別支援学校との交流会が始まりました。年長さんの園児たちは、特別支援学校のお兄さんお姉さんたちを迎え、おもてなしする立場として、しっかりと整列して大きな声であいさつや歓迎のうたを歌い、いつもよりも一回り大きく感じました。

附属幼稚園の紹介では、日ごろの遊びを班ごとにステージ上で披露してくれました。ダンス班が元気一杯おどりはじめると、会場に大きな手拍子が沸き起こり、続いてなわとび班、ハンドベル班、こま班がすばらしい技を演じてくれました。園児たちの一生懸命な姿に特別支援学校の生徒たちも笑顔いっぱい、大きな拍手で応えてくれました。

つづいて、特別支援学校の生徒から園児たちへ卒園記念品が贈られました。ヒノキで出来た写真立て付きペン立ては、生徒たちの手作り品。その素晴らしい出来栄に私も驚きました。素敵なメッセージカードも添えられ、園児たちは早速ペン立てを触ったり匂いを嗅いでヒノキの手触りや香りを感じていました。「いい匂いだよ」と教えてくれた子もいました。ヒノキの角で子供たちがケガをしないようにと30分以上かけてやすりでツルツルに磨いてくれたとのことをお話を伺い、一つ一つ心をこめて作成してくれたことに大変感動いたしました。カンガルーシップの交流は、交流会に向けて生徒や園児がお互いに相手を思いやりながら作業や準備を行うところから始まっているのだと思いました。

遊びの時間はみんな元気一杯。「あそぼう！」と声をかける園児に答えてお兄さんお姉さんたちもなわとびやこま回しなどで楽しく遊んでくれました。微笑ましい交流に大変心が温かくなりました。

この交流会を通じて、相手を思いやる心や感謝する心の大切さを学ぶことができたのではないかと思います。附属校園だからこそ経験できる貴重な交流会に参加させていただき、ありがとうございました。

・附属幼稚園の子供たちは、昨年12月に交流をした、支援学校高等部のお兄さんお姉さんと、もう一度会えることをとても楽しみにしておりました。精一杯のおもてなしをしようと、一生懸命に「ダンス」や「縄跳び」、「ハンドベル」「こま回し」を披露し、お兄さんお姉さんの温かい眼差しとたくさんの拍手をいただき、園児たちもとても嬉しそうでした。

卒業記念品の「ペン立てフォトフレーム」授受の際は、制作過程や使用工具、材料等について丁寧に説明して頂き、園児達も真剣に耳を傾けておりました。記念品を受け取った園児達は、みなとても喜んでおり、そんな園児達を見てお兄さんお姉さんも嬉しそうでした。ペン立ての木のぬくもり、なめらかさから、お兄さんお姉さんの真心が伝わってくる素敵な贈り物でした。その思いはしっかりと子供たちに届いているようでした。

遊びの時間では、お兄さんお姉さんが積極的に遊びに加わって下さり、優しい言葉をかけて頂き、あっという間に園児たちとの距離が縮まり、とても楽しい時間を過ごしていました。「同じ空間で一緒に時間を過ごす」、その交流の回数を増やすことで、よりお互いを理解しあうことができる、今後のインクルーシブ教育につながっていくのではないかと思います。

お迎えする立場の緊張感や達成感を経験できた事、人の優しさに直にふれる経験ができた事、そしてお兄さんお姉さんと遊んだ楽しい思い出ができた事は、園児たちのこれからの大きな糧になる事と思いました。また、他の保護者の方から、「相手を思いながらつくり、作り手を思い浮かべながら使う」「作り手に直に御礼を言える」こんな機会はなかなか無い貴重な体験との話があり、本当にその通りだなと思いました。附属校園ならではと思いますので、今後もこの交流会が続いてほしいです。このような温かい交流会に参加させていただき、本当にありがとうございました。